



北岳から富士を望む

日本大学
通信教育部
校友会

校友会報

高知県支部

(発行者代表)
会長 岡崎雅美

(編集者)
〒780-8087
高知市針木北
2-8-31-7
幹事長 和田明
Tel. 088-843-2713

謹賀新年 2015年元旦

日本大学通信教育部校友会会長 白戸忠志

四国ブロック長 土井栄次

高知県支部長 岡崎雅美

題字

作成 藤田邦夫さん



高知県支部会報をお届けします。
次号は、本部会報と共に、8月にお送りします。9月の支部総会のお知らせです。



お新
知年
ら会
せの

■開催日時■平成27年1月24日(土)
受付14:30~15:00 新年会15:00~18:00
■会場■日本大学校門会館4階(桜ホール)
■会費■男性:7,000円 ■女性:6,000円
■新卒:4,000円 ■学生:2,000円

※会場はJR市ヶ谷駅徒歩1分の校門会館です。
※参加は校友会事務局まで TEL-FAX 03(3234)5858

副 副 会 顧
事 会 会 員
長 長 長 長 問

和田水岡藤
田能田崎田
満耕雅邦
寿
明夫吉美夫

謹んで
新春のお慶びを
申し上げます

通信教育部が9月に市ヶ谷に移転しました。私達の校友会も市ヶ谷の日大会館8階の靖国通りに面した1室に移転しました。事務局は月・火・金に開いておりますのでお立ち寄りください。

火曜日 小川 月・金曜日 中田
10時~18時勤務

杉のたらい

水田耕吉

我が家の土蔵は昔のように米俵を積み上げることもなく、今や不用品の物置となっている。薄暗い一階部分には民俗資料館や古物商の店先で見かけるような昔の、それも時代の異なる様々な物が雑然と空間を占めている。それらの中でタライがひとつ隅の方で息をひそめている。それは極上の杉板で造られ竹のタガでしつかりと締められている。薄明かりを透かしてこの円くて小さな生活用品を見るたび、私はそれにまつわる誰も知らないエピソードを話したくなる。

私の祖母は早くから寡婦としてつつましい生活を送っていたが、男の子二人、女の子四人の孫に恵まれていた。私は六人兄弟の末っ子として、いつも甘やかされ我がままいっぱいのいたずらっ子に育っていた。一方十歳年上の兄はというと、彼は温厚で従順な性格の持ち主であった。祖母が兄のことを水田家の跡継ぎとしてこの上ない存在として可愛く思っていたのは当然のことであった。

ところで一番年下の姉は高知市内の女学校に通っていたが、在学中に結核を患い休学を余儀なくされ、快復の見込みもないまま家庭療養を続けていた。当時、結核は不治の病とされ、感染力の強いこともあって人々に怖れられていた。

近隣の人たちは不幸な患者の居る家は避けて通り、どうしても必要な時は口のあたりを手で覆ったりして素早く通り抜けて行くありさまだった。

さて、こうした暗い状況の中で、在る日ひとりの少女が姉の病氣見舞いに来てくれたのである。彼女の行為は友情を超え人間愛に満ちたものであったと思っている。思いがけない親友の来訪は生きる希望を失った姉の心を癒し、元気づけてくれたに違いない。

遠い昔のことでのこの女学生の顔は思い出せないが、とても背が高かったことだけは覚えていいる。祖母は彼女の温かい心に感動し、教職に就いたばかりの自慢の孫にとつて理想の花嫁と考え、ひとり夢を膨らませ始めたのは自然の成り行きであった。

時あたかも太平洋戦争の最中、祖母は近所の桶屋に頼んで産湯用のタライを造ってもらったのである。待ち望む時が来るまで、彼女はこの特注品を現在の場所に大切に保管したわけである。

何と手まわしのよい人よと皆さんは呆れてしまうかもしれない。気の速い女性であったことは確かである。しかし食料品はもちろんのこと、生活用品も日ごとに入手できなくなっていた戦時下の暗い生活を考えると、彼女のせつかちを笑うことはできない。彼女は特別な慶事への準備を怠らなかつただけの話である。

一年後、兄は空挺隊の精鋭として戦場に送られ、二度と母国の土を踏むことはなかつた。フィリピンで戦死した旨の公式通知が届いたのは戦後のことである。家族はこのことを祖母には秘密にしていたが、それも一時のことであった。兄の戦死を知ってから三月ほど後祖母は逝ってしまった。心の痛手は余りにも大きかったのであろう。

祖母があつらえたタライは七十余年を経た今日まで手付かずのまま土蔵の一角を占め続けている。出来たての頃の赤みがかつた杉の板と青い竹は温かい光沢を失い、水田家の新参者を清らかな初湯で祝福することもかなわぬまま、ひっそりと座り続けている。唯一の証人が居なくなったらタライは暗い部屋で埃をかぶったガラクタのひとつと成り果てる運命である。

原稿募集

2・3面は、会員の投稿文を、載せました、新しい企画です。年2回の発行では、間が空きますが、投稿下さい。又は、投稿文に、感想をお寄せ下さい。

卒論とフェリー

ずーっと以前の事です。卒論の提出期限の前日の夜、高知港から東京行きのフェリー「サンフラワー」に乗り込みました。未成の卒論を提げて。

当時、卒論は民法の分野で書こうかなと思っていました。民法学者の「我妻栄・博士」の著書を読んでいるうち、自分の分け入る分野が全く無いことを感じ、ほとほと困ってしまいました。

その後、他の色んな参考文献を読んでみて、やっと刑法の分野からテーマを決めることが出来ました。そのため、高知地方裁判所や東京地方裁判所で資料を貰ったり公判を傍聴したりしたものです。

あれやこれやで卒論作成に取り掛かるのが遅く、指導教官をお願いする暇もなく、一人で提出期限に間に合うよう書き上げるのに必死でした。

どうにか原稿は仕上げたものの、提出期限にギリギリの状態でした。こうした中で提出期限の前日を迎えましたが、清書と製本を完成させるのに後若干の時間が必要でした。そこで、フェリーの中で仕上げることにし、未完成の卒論と製本用具を提げて「サンフラワー」に乗りました。

フェリーの中では船員の方に相談して、夜間、他の人に迷惑のかからない場所を提

供してもらって作業を行い、徹夜でやっと卒論の製本までを完成させました。もちろん、寝る時間はありませんでした。

翌日の朝東京に着き、その足で日大に直行。無事、卒論提出を済ませました。やれやれ！

後に教授（法学部）の面接で、色々聞かれました。

教授「刑法学者の方たちの名を知っていますか？」

私「よくは知りません」

教授「この論文は君一人で書いたのですか？」

私「はい、そうです」

その教授に、私は卒論の下書（原稿）を示しながら書き上げるまでの経緯を説明しました。後日、卒論に対する成績を見ると良い評価を頂いており、感激したものです。

日大在学中に勤めていた職場で、大先輩（高専校長）が言っていた言葉です。「人は忙しい時にこそ良い仕事が出来るものだ」と。今でもその通りだと思っています。

【S 49 法卒 藤田邦夫】

2014年

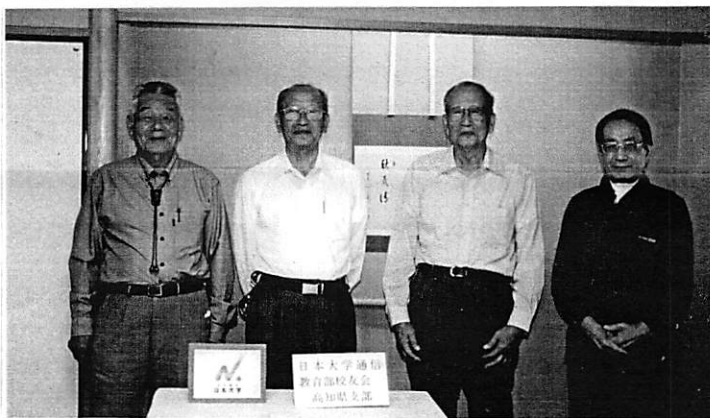
日時 2014年9月12日

場所 高知市上町2丁目城西館

総会は、副会長の田能満寿夫さんの司会進行で、1時間たっぷり論議しました。

高知県支部総会

10年の空白のあった、高知県支部が、高知城の近くの、城西館で、支部総会を開きました。総会といっても、すべて役員が集まりで、総会の名に値しないかもしれないが、着実に支部らしさが生まれつつあります。



和田 明 田能満寿夫 水田耕吉 藤田邦夫

2014年

日本大学通信教育部校友会



総会参加者

- 本部 1名
- 香川県 9名
- 徳島県 1名
- 愛媛県 1名
- 高知県 1名
- 総数 13名



懇新会会場

四国ブロック総会

2014年11月8日(土)

善通寺グランドホテル

3時から総会が開かれ、5時に終了しました。本部から、新築なった、通信教育部校舎、校友会からの、会報発送補助金の説明がありました。

懇親会では、多くの参加者が、カラオケで会場を盛立てました。



本部表賞

2015年 支部総会

9月12日(土曜日)

会場 高知会館

2015年の総会は、2016年四国ブロック会議のリハーサルの意味で、高知会館で開くことになりました。

理由は、宿泊費が安い、お城に近い、日曜市を歩ける、ひろめ市場を覗ける等です。1年かけて、じっくり、研究していきましょう。



校歌斉唱・ロマンの歌

2015年 四国ブロック会議

愛媛県担当

8月・9月予定

松山市 道後温泉